J

CELVIANO AP-26

取扱説明書（保証書別添）

ご使用の前に「安全上のご注意」を
よくお読みの上、正しくお使いください。
本書は、お読みになった後も大切に
保管してください。

CASIO

安全上のご注意

このたびは、カシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書は、お読みになった後も大切に保管してください。

絵表示について
この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警　告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ 注　意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は「気をつけるべきこと」を意味しています。（左の例は感電注意）

⃠ 記号は「してはいけないこと」を意味しています。（左の例は分解禁止）

● 記号は「しなければならないこと」を意味しています。（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

⚠ 警　告

電源コードに注意する

●電源は使いかたを誤ると、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。
- 電源は、AC100V(50/60Hz)のコンセントを使用する
- 1つのコンセントにいくつもの電気製品をつなぐ、いわゆるタコ足配線をしない

●電源コードは使いかたを誤ると、傷がついたり破損して、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。
- 重いものをのせたり、加熱しない
- 加工したり、無理に曲げない
- ねじったり、引っ張ったりしない
- 電源コードやプラグが傷んだらお買い上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに連絡する

●濡れた手で、コンセントに差し込んである電源プラグに触れないでください。感電の原因となります。

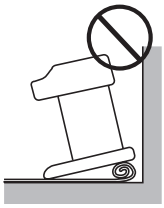
●製品本体に水のかからない状態で使用してください。水がかかると火災や感電の原因となります。

●製品本体の上に花瓶など液体の入ったものを置かないでください。水がかかると火災や感電の原因となります。

不安定な場所に置かない

本機を、ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定なところ*に置かないでください。倒れてけがをする恐れがあります。
* じゅうたんの重なりやコードの挟み込みなどに注意

スタンドは必ず本体とネジでしっかりと固定してご使用ください。本体が落ちてけがをする恐れがあります。



⚠ 警 告

本機やスタンドの上に乗らない

本機の上にのったり、揺らしたりしないでください。特に小さなお子様のいるご家庭では十分にご注意ください。スタンドが倒れてけがをする恐れがあります。

火中に投入しない

本機を火中に投入しないでください。破裂による火災・けがの原因となります。

水などの入った容器などを置かない

本機、または鍵カバーの上に次のものを置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

- 水などの入った容器。(花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)
- 小さな金属物。(ヘアピン、縫い針、硬貨など)
- 燃えやすいもの。
- ろうそくなど炎が発生しているもの。

万一、異物が本機の内部に入った場合は、次の処置を行なってください。

1. 電源スイッチを切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに連絡する。

水気のある場所で使用しない

火災や感電を防止するため、雨のかかる場所また水気のある場所では本機を絶対に使用しないでください。

⚠ 警 告

分解・改造しない

本機を分解・改造しないでください。感電・やけど・けがをする原因となります。内部の点検・調整・修理はお買い上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにご依頼ください。

煙、臭いなどの異常に注意する

煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源スイッチを切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに連絡する。

落とさない、ぶつけない

本機を落としたときなど、破損したまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源スイッチを切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに連絡する。

袋をかぶらない、飲み込まない

本機が入っていた袋をかぶったり、飲み込んだりしないでください。窒息の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

鍵カバーの開け閉めについて

鍵カバーは完全に開けてご使用ください。閉めるときは鍵カバーを手前に持ち、ゆっくりと閉めてください。本機と鍵カバーとの間に指をはさみ、けがの原因となることがあります。

⚠ 注 意

電源について

いつでも電源プラグが抜けるよう、電源プラグに手が届く場所で本機をお使いください。

電源プラグに注意する

電源コードは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

- 電源コードをストーブ等の熱器具に近づけない
- プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない（必ずプラグ本体を持って抜く）
- 使用後は本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

電源プラグに注意する

電源プラグは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

- プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む
- 雷雨のとき、または旅行などで長期間使用しないときはプラグをコンセントから抜く
- コンセントから抜いたプラグの刃と刃の周辺部分にほこりがたまらないように清掃する

移動させるときは

本機を移動させる前には、必ず次の処置を行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

1. 電源プラグをコンセントから抜く。
2. ペダル接続用のコードや背面接続コードなどを外したことを確認する。

⚠ 注 意

お手入れについて

お手入れの際は、プラグ本体をコンセントから抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。また、本体が落ちてけがの原因となることがあります。

本機やスタンドに乗らない

倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。特に小さなお子様にはご注意ください。

コネクター部への接続注意

コネクター部には、指定以外の別売品を接続しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

置き場所に注意する

本機を次のような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多い場所
- 調理台のそばなど油煙が当たるような場所
- 暖房器具の近く、ホットカーペットの上、直射日光があたる場所、炎天下の車中など本機が高温になる場所

本機を、家具などの塗装面に直接置かないでください。本機底面のゴム足と塗料が反応し、塗装面が汚れたり、傷つくことがあります。ゴム足の下にフェルトなどの布を敷いて、ご使用ください。

重いものを置かない

本機の上に重いものを置かないでください。スタンドが倒れたり、のせたものが落ちてけがをする恐れがあります。

⚠ 注 意

音量に注意する

大きな音量で長時間使用しないでください。特にヘッドホンをご使用の際にはご注意ください。設定によっては聴力障害の原因となることがあります。

スタンドは正しく組み立てる

スタンドが倒れたり、本機が落ちたりして、けがの原因となることがあります。
スタンドに記載されている組み立ての説明にしたがって、しっかりと組み立ててください。また、本機はスタンドに正しく設置してご使用ください。

- 本体をスタンドに乗せるときは、本体とスタンドの間に手をはさまないようご注意ください。

- 本機の設置や移動は必ず二人以上で行ってください。一人で無理に移動させると、スタンドが倒れてけがをする恐れがあります。

- 本機の設置や移動時には、スタンドを引きずったり、前後に傾けたりしないでください。スタンドが倒れてけがをする恐れがあります。

- スタンドのネジがゆるんでいないか時々点検してください。ゆるんでいたら再度ネジをしっかりと締めてください。スタンドが倒れたり、本体が落ちてけがをする恐れがあります。

イスについて

説明にしたがって、しっかりと組み立ててご使用ください。イスをゆらしたり、傾けたり、イスの上で飛び跳ねたりしないでください。変形したり、ネジがゆるんだりすると、倒れてけがの原因となることがあります。

主な特長

■ いろいろな音色で演奏することができます。（8 音色） ☞10 ページ

ピアノやパイプオルガンなど、8 種類の音色から選んで演奏できます。2 つの音色を重ねたり、鍵盤の左右に割り当てて演奏もできます。また、演奏に奥行きと深みを与える残響効果をかけたり（デジタルエフェクト）、アコースティックピアノと同じように、3 種類のペダル効果をかけたりすることもできます。

■ メトロノームを使えます。 ☞13 ページ

曲に応じて、カウント音の速さや拍子を自由に変えることができます。練習用にお使いください。

■ 8 曲のデモ演奏が内蔵されています。（デモ） ☞16 ページ

それぞれの曲は、各音色ボタンと同じ音色を使って演奏されます。

■ 演奏を 2 つの場所に録音、再生することができます。（ソングメモリー）。 ☞14 ページ

2 つの場所のそれぞれに、別々の曲を録音、再生したり、パートレッスンなどで一方に録音し、その再生に合わせてもう一方に録音したものを、あとで同時に再生したりすることもできます。

■ 鍵盤の設定やタッチを変えることができます。 ☞17 ページ

本機の鍵盤全体の音の高さを、半音単位で上下させたり（トランスポーズ）、本機全体の音程を調節すること（チューニング）ができます。また、鍵盤を弾くときの強弱の感度を変えること（タッチセレクト）もできます。

■ MIDI 端子を備えています。 ☞19 ページ

他の楽器と接続すれば、片方を弾くだけで両方を鳴らすことができます。また、市販品の MIDI シーケンサーと接続すると、本機 1 台で複数のパートを鳴らすことができます。

■ インターネットを利用してダウンロードした曲データを本機へ保存／再生できます。 ☞20 ページ

パソコンと接続すれば、カシオのホームページ（CASIO MUSIC SITE）からダウンロードした曲データを本機へ保存して、聴いたり練習したりできます。

目次

安全上のご注意 ..... 表紙裏

主な特長 4

目 次 5

各部の名称 6

ヘッドホンを接続するには 7

電源の準備 8

ご使用上の注意 9

基本的な操作をしてみましょう 10

音色を選ぶには 10

2つの音色を重ねてみる 10

2つの音色を左右に分けてみる 11

音色に効果をかけるには
（デジタルエフェクト） 11

ペダルの効果をかけるには 12

メトロノームを使うには 13

演奏を録音してみましょう 14

メモリーについて 14

録音するには 14

再生するには 15

消去するには 15

デモ演奏を聴いてみましょう 16

全曲を聴くには 16

曲を選んで聴くには 16

演奏を止めるには 16

鍵盤の設定を変えてみましょう 17

タッチセレクトについて 17

トランスポーズについて 17

チューニングについて 18

MIDI を使ってみましょう 19

MIDIについて 19

MIDIの接続について 19

各設定をするには 19

本機の曲を増やすには 20

困ったときは 21

イスの組み立てかた 22

スタンドの組み立てかた 23

譜面立ての立て方 25

製品仕様 26

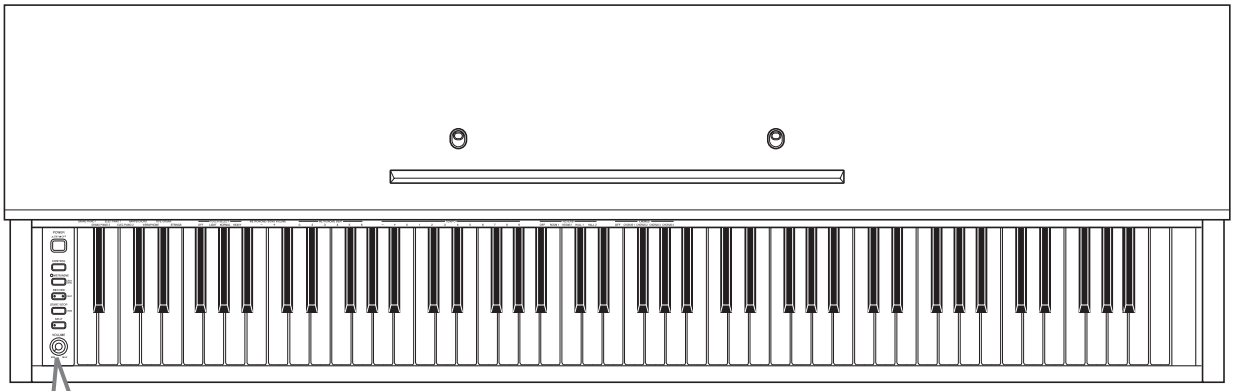
保証・アフターサービス 27

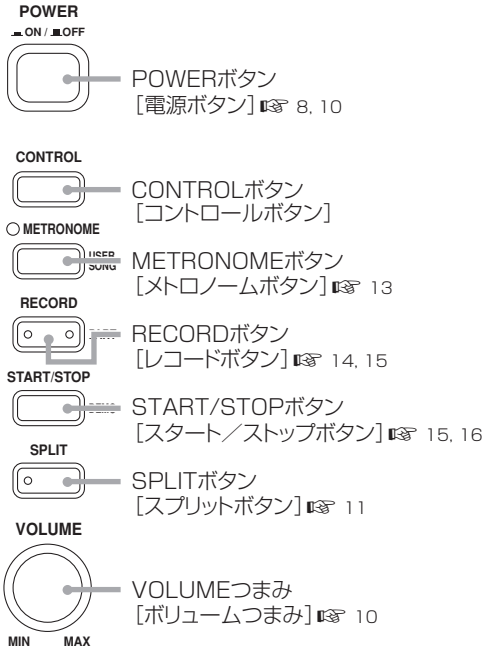
資料 27

初期設定一覧表 27

*MIDI インプリメンテーション・
チャート ..... 巻末*

各部の名称





CONTROLボタンを使った設定について

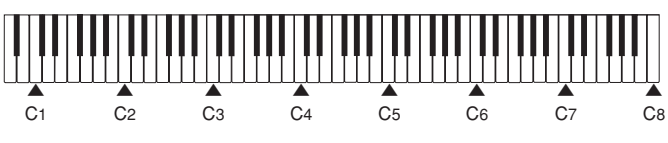
- CONTROLボタン+ 鍵盤押し
  - ➪ 音色の選択 ☞ 10
  - ➪ エフェクトの設定 ☞ 11、12
  - ➪ メトロノームの設定 ☞ 13
  - ➪ タッチの設定 ☞ 17
  - ➪ トランスポーズの設定 ☞ 17
  - ➪ チューニングの設定 ☞ 18
  - ➪ MIDI関連の設定 ☞ 19、20

- ☞ マーク右の数字は、参照ページです。
- スタンドについては、23 ページをご参照ください。

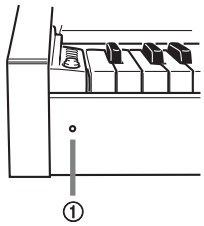
参考

音名の対応

C4 などの数字は鍵盤の位置を示しています。

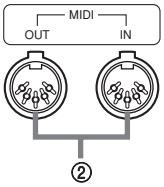


【前面図】



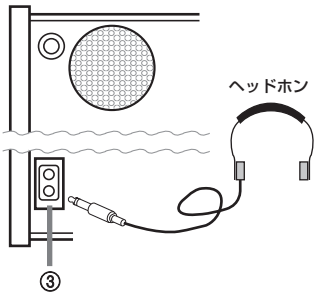
① 電源ランプ ☞ 8

【背面図】

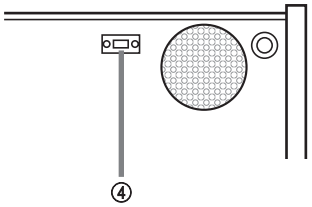


② MIDI端子(ミディ端子) ☞ 19

【底面図】



③ ヘッドホン端子



④ ペダルコネクタ ☞ 25

重要

- **接続の際は、本機のVOLUMEつまみを（接続する機器側にも音量調節があればそちらも）絞っておき、接続後、適切な音量に調節してください。**

ヘッドホンを接続するには

ヘッドホンをヘッドホン端子に接続します。本機のスピーカーからは音が出なくなり、夜間なども周囲に気がねなく演奏が楽しめます。なお、耳の保護のために音量を上げすぎないようにご注意ください。

NOTE

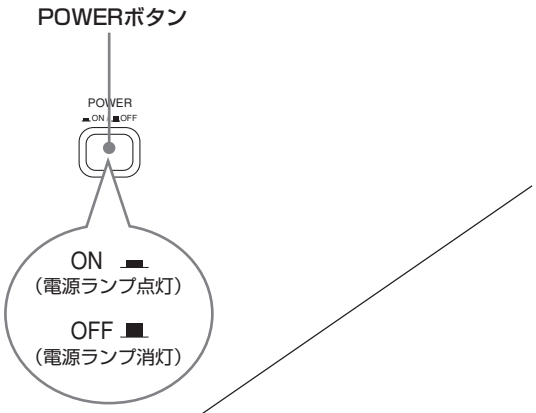
- 本機を演奏する際、必ず本機のスライド式鍵カバーを完全に開けるようにしてください。不完全な開け方で演奏した場合、演奏の際の振動でカバーが閉まり、本機とカバーとの間に指をはさむことがあり、危険です。

電源の準備

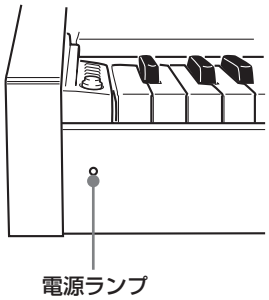
本機は、電源として家庭用電源を使用します。
ご使用後は、必ず電源を切ってください。

1 POWER ボタンを“OFF”にしておきます。

【スイッチ図】



【前面図】



2 電源プラグを家庭用コンセントに差し込みます。

重要

- **電源プラグを抜き差しするときは、POWER ボタンが“OFF”になっている事を確認してください。**

● 本機の電源を完全に切るには、電源ランプが消えた後にコンセントから電源プラグを抜いてください。安全上の対処等で電源を切る場合、必ずお守りください。

420B-J-010A

ご使用上の注意

「安全上のご注意」と併せてお読みください。

設置上のご注意

本機を次のような場所に設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所。
- 極端に温度の低い場所。
- ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所（これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります）。

本機のお手入れについて

お手入れにベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は使わないでください。
鍵盤などのお手入れは柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞ってお拭きください。

リチウム電池消耗に関するご注意

本機は、メモリーに記録した内容を電源を切った後（メモリー停止中に電源を切った後）も保持するために、本体内にリチウム電池を内蔵しています。このリチウム電池が消耗すると、録音を行なった後で本体の電源を切ると同時に録音内容は消去されてしまいます。内蔵のリチウム電池の寿命は、本機の製造より約5年ですので、お買い上げより相当の年数が経ちましたら、最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにご連絡ください。有償にて電池交換をいたします。

※ 本機の故障、修理や電池交換などによるメモリーデータの消失により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなるご請求についても、当社では一切その責任は負えませんので、あらかじめご了承ください。

付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウエルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓をしめたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

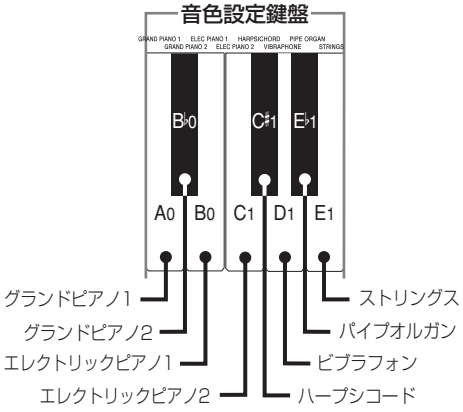
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不明な点や誤りなど、お気付きの点がございましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

基本的な操作をしてみましょう

音色を選ぶには

本機には、８種類の音色※が備わっています。
※ スプリットボタン使用時には、低音部専用として2音色があります。（11ページの「内蔵のベース音色について」参照）

＊ *音色名は、本機鍵盤部の上側に記されています。*



- “グランドピアノ1”の音色はステレオサンプリングになっています。

演奏を始めるには

1 電源を入れます。
- POWERボタンを押します。
- “グランドピアノ1”の音色が選ばれています。

2 音色を選びます。
- CONTROLボタンを押したままの状態で、選びたい音色に対応している鍵盤を押します。

＊このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

3 音量を調節します。
- VOLUMEつまみを使って調節します。あらかじめ小さめにしておくと良いでしょう。

＊音量は“MIN”にいくほど小さく、“MAX”にいくほど大きくなります。

4 鍵盤を弾いてみましょう。

➟ 選んだ音色で演奏できます。

＊音を聴きながら、音量を調節しましょう。

5 演奏を終えたら、POWERボタンを押して電源を切っておきましょう。

２つの音色を重ねてみる

本機では、２種類の音色を重ねて演奏できます。

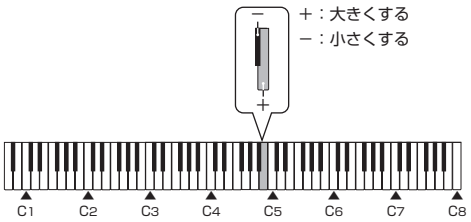
1 CONTROL ボタンを押しながら、重ねたい音色に対応している鍵盤を２つ一緒に押します。

例：GRAND PIANO 2 と STRINGS を重ねる。

2 もとの１音色の状態に戻すには、CONTROL ボタンを押しながら音色設定鍵盤をどれかひとつ押します。

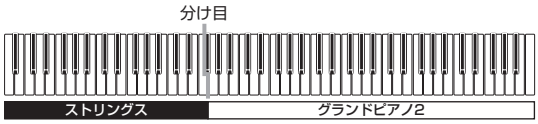
後から重ねた方の音色の音量を調整するには

1 CONTROL ボタンを押したまま、以下の鍵盤を押します。



2つの音色を左右に分けてみる

本機では、鍵盤を高音部、低音部に分けて、それぞれ別々の音色で演奏できます。



1 高音部に割り当てたい音色に対応している鍵盤を押します。
例：GRAND PIANO 2

2 SPLIT ボタンを押します。
●スプリットランプが点灯します。

3 低音部に割り当てたい音色に対応している鍵盤を押します。
例：STRINGS

4 もとの 1 音色の状態に戻すには、SPLIT ボタンを押します。
●スプリットランプが消灯します。

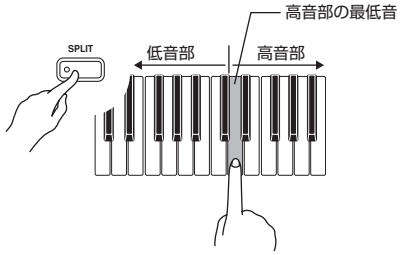
内蔵のベース音色について

本機は、2 種類のベース音色を内蔵しています。

- 操作 2 で SPLIT ボタンを押すと、低音部にひとまず“アコースティックベース”の音色が割り当てられます。
- 操作 2 で CONTROL ボタンを押しながら SPLIT ボタンを押すと、低音部に“ライドアコベース”の音色が割り当てられます。

2つの音色の分け目を変えるには

1 SPLIT ボタンを押しながら、高音部の最低音（左端）にしたい鍵盤を押します。



＊このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

音色に効果をかけるには（デジタルエフェクト）

音色に対して、さまざまな音響効果（デジタルエフェクト）を付加することができます。

【デジタルエフェクトの種類】

REVERB（リバーブ）：4 種類

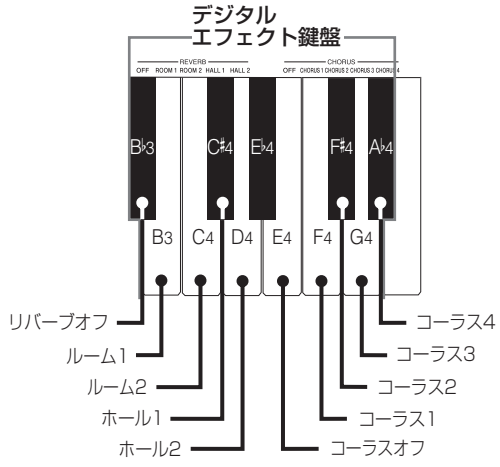
音に奥行と広がりが加わります。演奏を行なう場所によっての残響感の違いを再現するために、4種類のリバーブがついています。

ルーム 1 .... 小さなライブハウスの中で演奏しているような残響感を再現。
ルーム 2 .... 小ホールのステージ上で演奏しているような残響感を再現。
ホール 1 .... 大きいホールのステージ上で演奏しているような残響感を再現。
ホール 2 .... 大きいホールの客席で演奏を聴いているかのような残響感を再現。

CHORUS（コーラス）：4 種類

音に奥行と厚みが加わります。このエフェクトはエレクトリックピアノに有効です。

＊ 設定できる内容は、本機鍵盤部の上側に記されています。



デジタルエフェクトを設定／解除するには

1 デジタルエフェクトを設定／解除します。

- CONTROLボタンを押したままの状態で、設定したいデジタルエフェクトに対応している鍵盤（解除のときはオフの鍵盤）を押します。
  ＊このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

【電源を入れたときの設定について】

電源を入れたとき、各音色のそれぞれに適したデジタルエフェクトが、あらかじめ設定されています。各音色ごとに設定されているデジタルエフェクトは、下記の通りです。

音色名	デジタルエフェクト	
	REVERB	CHORUS
GRAND PIANO 1	HALL 1	OFF
GRAND PIANO 2	HALL 1	OFF
ELEC PIANO 1	HALL 1	CHORUS 1
ELEC PIANO 2	HALL 1	CHORUS 1
HARPSICHORD	ROOM 2	OFF
VIBRAPHONE	HALL 1	CHORUS 1
PIPE ORGAN	HALL 1	OFF
STRINGS	HALL 1	OFF
ACOUSTIC BASS	OFF	OFF
RIDE ACO BASS	OFF	OFF

＊これらのデジタルエフェクトの設定は、自由に変えることができます。

MEMO

- 音色を選ぶと、その音色に対して設定されているデジタルエフェクトが自動的に選ばれます。
- 電源を切ると、各音色にあらかじめ設定されているデジタルエフェクトに戻ります（上記「電源を入れたときの設定について」を参照）。
- デモ曲の演奏中は、デモ曲に合ったデジタルエフェクトが自動的に選択されます。

音色について

同時発音数について

本機は、同時に最大 32 音まで発音します。
ただし、一部の音色では2種類の音色を組み合わせているため最大 16 音になるものもあります（GRAND PIANO 1、ELEC PIANO 2、RIDE ACO BASS）。

タッチレスポンスについて

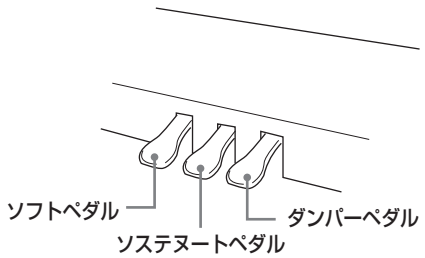
鍵盤を弾くとアコースティックピアノと同じように、鍵盤を押す強さによって、音色や音量が微妙に変化します（この機能のことを「タッチレスポンス」と言います）。
なお、もとの楽器の音色の性質上、ハープシコード音色では、鍵盤を弾く強さによる音色や音量の変化はごくわずかです。

デジタル・サンプリングの音色について

本機で鳴らすことのできる楽器音は、より本物に近い音色を再現するために、実際の楽器音をデジタル録音した音源を用いています。しかし、実際の楽器には、本機の鍵盤の全音域（A0～C8）の音を鳴らすことができないものがあるため、元の楽器をデジタル録音しただけではすべての鍵盤をカバーできない場合があります。こうした楽器の音では、元の楽器の音域外の音については、合成した音を使っています。このため、音色によっては、本物の楽器音をデジタル録音した部分と合成音部分とで音質やエフェクトのかかり具合が若干違って感じられるものがありますが、故障ではありません。

ペダルの効果をかけるには

ダンパー、ソフト、ソステヌートの3つのペダルがあります。



【各ペダルの働き】

ダンパーペダル
……演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤で弾いた音が響き、音に余韻が残ります。

ソフトペダル
……演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤で弾いた音の音色が柔らかくなり音量が若干小さくなります。ペダルを踏みこんだ後に弾いた音のみにかかる効果であり、鍵盤を押してからペダルを踏んでも音は変化しません。

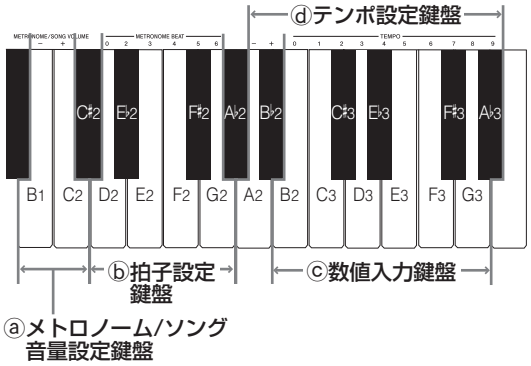
ソステヌートペダル
……演奏中にこのペダルを踏むと、ダンパーペダルと同様に鍵盤で弾いた音が響き、音に余韻が残ります。ダンパーペダルとの違いは、効果をかけるタイミングにあり、鍵盤を押してから、その鍵盤を離す前にペダルを踏んだ場合にのみ、その音に対して効果がかかります。

420B-J-014A

メトロノームを使うには

メトロノームとは、演奏を一定の速度に保つためにカウント音を鳴らすもので、曲に応じてカウント音の速さや拍子を自由に変えることができます。練習用にお使いください。

＊ 設定できる内容は、本機鍵盤部の上側に記されています。



メトロノーム音を鳴らすには

1 メトロノームの発音を開始します。

- METRONOMEボタンを押します。
- メトロノームの発音が開始されます。

2 拍子を設定します。

- CONTROLボタンを押したままの状態で、設定したい拍子に対応している鍵盤を押します（図のⓑ参照）。
  ＊このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。
- 拍子は2～6拍子の間で設定できます。拍子の設定値を「0」にした場合は、アクセントなしの設定となります。

3 テンポを設定します。

- CONTROLボタンを押したままの状態で、いずれかの鍵盤を押します（図のⓓ参照）。
  ＊このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。
- 鍵盤“A2（−）”を押すとテンポは遅くなり、鍵盤“B♭2（＋）”を押すとテンポは速くなります。鍵盤を押し続けると、テンポがすばやく変化します。
  また、鍵盤“A2（−）”と“B♭2（＋）”を同時に押すとテンポは“120”になります。
- “B2～A♭3”の数値入力鍵盤（0～9）を使って、テンポの数値（1分間の拍数）を入力することもできます（図のⓒ参照）。2桁あるいは3桁で入力してください。CONTROLボタンを離した時点でテンポが確定されます。
  1桁しか入力されていなかったり、設定範囲外の値を入力した場合は、設定前のテンポに戻ります。
- テンポは30～255（数字は1分間の拍数）の間で設定できます。

4 メトロノームの発音を止めるには、もう一度METRONOMEボタンを押してください。

- 同じ拍子／テンポ設定でメトロノームの発音を再開したい場合は、再度METRONOMEボタンを押してください。
- 拍子／テンポ設定を変更してメトロノームの発音を再開したい場合は、再度上記の手順を行ってください。

MEMO

- メトロノームの発音中、停止中にかかわらず、テンポや拍子の設定を変更することができます。
- メトロノームは、メモリー録音／再生時にも併用できます。詳しくは、次項目の説明を参照してください。

メトロノームの音量を設定するには

演奏音に対してメトロノームの音が大きすぎる、あるいは小さすぎると感じる場合は、全体の音量に対するメトロノームの音量を調節することができます。設定は、以下の手順で行います。

1 音量を設定します。

- CONTROLボタンを押したままの状態で、鍵盤“B1（−）”または“C2（＋）”ボタンを押して音量を調節します（図のⓐ参照。音量設定範囲000～127）。
  ＊このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

MEMO

- 電源を入れたときは、音量は“110”に設定されています。

演奏を録音してみましょう

本機で行った演奏を録音、再生することができます。

メモリーについて

録音できる容量

- トラックAとトラックBの2トラック合わせて、約5,200音符分録音できます。
  トラックとは、録音する場所のことです。
- 録音できる容量が残り少なくなると、録音しているトラックのランプが倍の速さで点滅します。
- 演奏の途中で録音できる容量を超えると、自動的に録音が止まります。

録音される内容

- 鍵盤で演奏した内容
  （MIDI で受信した内容は、録音できません）
- 演奏に使用した音色
- 録音時のテンポおよび拍子設定
- ペダルを操作した内容
- リバーブの設定
- コーラスの設定

録音内容の保持

本機は、録音した内容を電源を切った後にも保持するため※に、本体内にリチウム電池を内蔵しています。このリチウム電池が消耗すると、本体の電源を切ると同時に、録音内容は消去されてしまいます。内蔵のリチウム電池の寿命は、本機の製造より約5年ですので、お買い上げより相当の年数がたちましたら、最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにご連絡ください。有償にて電池交換を行ないます。

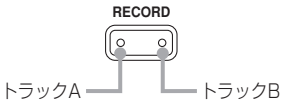
※ 録音の途中では、電源を絶対に切らないでください（下記 重要 参照）。

重要

- **どちらかのトラックが録音済みの場合で、そのトラックだけで録音できる容量一杯まで録音されている場合は、もう一方のトラック（データがないトラック）は、選択できません。**
- **本機に録音を行なう場合、以前に録音してあった内容は消去されます。**
- **録音中に電源が切れると、録音してあった内容はすべて消去されます。**
- **本機の故障、修理や電池交換などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。**

録音するには

鍵盤演奏をそのまま録音する以外に、録音済みのトラックの再生に合わせてもう片方のトラックに録音することもできます。以下、それぞれの操作の手順を個別に説明します。



鍵盤演奏をそのまま録音するには

準備

- 録音の開始時に使用する音色やエフェクトを選択しておきます。
- 録音時のテンポと拍子を設定しておきます（設定方法は、メトロノームのテンポ／拍子の設定方法（13ページ）と同じです）。

1 RECORDボタンを押して、録音の待機状態に入ります。

- トラックAが優先して選ばれ、ランプが点滅を始めます。
- 拍子の設定は、この時点でも可能です。
- 録音中にメトロノームを鳴らしたい場合は、ここでMETRONOMEボタンを押します。メトロノームの発音が開始されます。

2 録音するトラックを選びます。

- CONTROLボタンを押しながら、RECORDボタンを押します。押すごとにランプの点滅が次のように切り替わります。

3 録音を開始します。

- 鍵盤演奏を始めると同時に録音が開始されます。
- START/STOPボタンを押しても、録音が開始されます。この場合は、START/STOPボタンを押してから実際に鍵盤で演奏を始めるまでの「間」も記録されます。

4 録音を終了するには、START/STOP ボタンを押します。

- 録音したトラックのランプが、点滅から点灯にかわります。
- メトロノームの発音も止まります。
- 今録音した内容をそのまま再生したい場合は、ここで再度START/STOPボタンを押してください。

録音済みのトラックを再生しながら、もう一方のトラックに録音するには

基本的な操作は、前項の「鍵盤演奏をそのまま録音するには」と同じです。

例：録音済みのトラックAの再生に合わせて、トラックBに録音したい場合

1 再生するトラックを選びます。

- CONTROLボタンを押しながらRECORDボタンを押して、トラックAのランプを点灯させておきます。

2 RECORDボタンを押して、録音の待機状態に入ります。

- Aのランプが点滅をはじめます。CONTROLボタンを押しながらRECORDボタンを押して、トラックBのランプを点滅させます。

3 録音を開始します。

- START/STOPボタンを押すと、トラックAの再生とトラックBへの録音が同時に開始されます。トラックAの再生に合わせて、演奏してください。

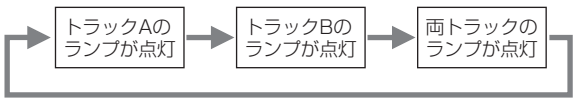
MEMO

- 録音待機状態ではテンポと拍子を変更することができます。ただし再生時は、トラックAの録音で設定したテンポや拍子で再生されます。

再生するには

1 再生するトラックを選びます。

- ランプが点灯しているトラックが、再生待機中のトラックです。
- CONTROLボタンを押しながら、RECORDボタンを押します。押すごとにランプの点灯が次のように切り替わります。



- 両トラックを同時に再生したい場合は、両トラックのランプを点灯させます。

2 START/STOP ボタンを押して、再生を始めます。

- 再生の途中でメトロノーム音をオン／オフしたい場合は、METRONOMEボタンを押します。
- 録音した演奏が終わると、自動的に止まります。
- 途中で止めるときは、START/STOPボタンを押します。
- メトロノームの発音を止めるには、METRONOMEボタンを押します。

MEMO

- 再生時にテンポを変更することができます。
- 再生の音色を変えることはできません。

消去するには

重要

- **以下の操作を完了すると同時に、録音した内容はすべて消去され、元に戻すことはできなくなります。消去しようとしているトラック（AまたはB）を一度再生して、消去してもよいことをご確認の上、以下の操作を行なうことをおすすめします。**

トラックを選んで消去するには

1 録音待機の状態にします。

- CONTROLボタンを押しながら、RECORDボタンを押します。押すごとにランプの点滅が次のように切り替わります。消去したいトラックのランプを点滅させます。

2 消去します。

- START/STOPボタンを続けて2度押します。
- トラックの内容が消去されます。

両トラックを一斉に消去するには

1 RECORD ボタンを 2 秒以上押し続けます。

- 両トラックのランプが点滅して、両トラックの内容が一斉に消去されます。

デモ演奏を聴いてみましょう

8曲のデモ演奏が内蔵されています。それぞれの曲は、本機に内蔵されている各音色と同じ音色を使って演奏されます。曲名は下記の通りです。

全曲を聴くには

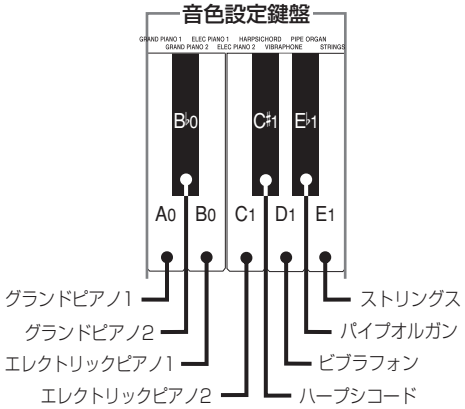
1 CONTROL ボタンを押しながら、START/STOP ボタンを押します。

➟1曲目から順番に、全曲が繰り返し演奏されます。

曲を選んで聴くには

1 デモ曲再生中に、CONTROL ボタンを押しながら、聴きたい曲名に対応する音色の設定鍵盤を押します。

➟選んだ曲から順番に、全曲が繰り返し演奏されます。



演奏を止めるには

1 START/STOP ボタンを押します。

MEMO

- 演奏中、テンポや音色の変更、メトロノームを鳴らすことはできません。
- 演奏中、鍵盤を弾くと、デモ演奏と同じ音色で弾くことができます。
- デモ演奏中は、VOLUMEつまみを調節することができます。
- 演奏が始まると、下記の内容は各曲に設定されているものに自動的に切り替わります。なお演奏を止めた後も、そのまま設定が保持されます。
  [音色、デジタルエフェクト、トランスポーズ、チューニング]
- デモ演奏に合わせて鍵盤演奏しているとき、ペダルの効果は鍵盤演奏に対してかかり、デモ演奏にはかかりません。
- デモ演奏を、MIDI で送信することはできません。

【デモ演奏リスト】

音色名	曲名	作曲者
GRAND PIANO 1	エチュード　作品 25 の 9「蝶々」	ショパン
GRAND PIANO 2	いつか王子様が	チャーチル
ELEC PIANO 1	オリジナル	——
ELEC PIANO 2	オリジナル	——
HARPSICHORD	パルティータ 1 番より　プレリュード	J.S. バッハ
VIBRAPHONE	オリジナル	——
PIPE ORGAN	“主よ、人の望みの喜びよ”	J.S. バッハ
STRINGS	オペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」より　間奏曲	マスカーニ

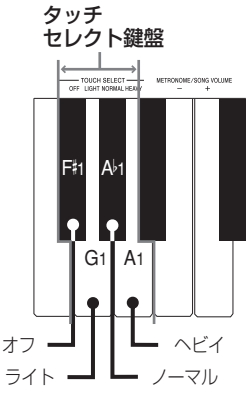
420B-J-018A

鍵盤の設定を変えてみましょう

タッチセレクトについて

鍵盤を押す強さや速さは、人によって異なります。お子様や初心者の方のように、指の力が弱い方や、強いタッチで練習したい方のために、鍵盤を弾くときの強弱感度を変えることができます。

＊ 設定できる内容は、本機鍵盤部の上側に記されています。



OFF ..... オフ
LIGHT ..... 弱い（弱めに弾いても大きな音、強い音が出ます。）
NORMAL .. 標準（標準的な感度です。）
HEAVY .... 強い（強めに弾いて、標準の音が出ます。）

1 タッチセレクトの設定をします。

- CONTROLボタンを押したまま、選択したい感度と対応している鍵盤を押します。
  ＊ このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

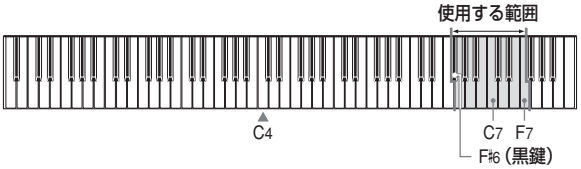
MEMO

- 電源を入れたときは、“標準”が選択されています。

トランスポーズについて

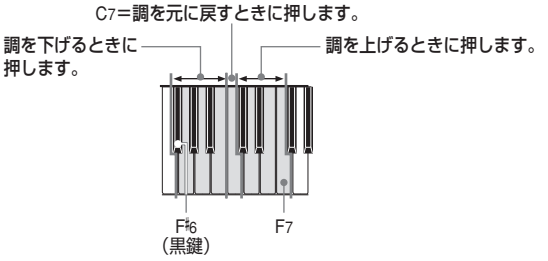
本機の鍵盤全体の音の高さを、半音単位で上下させることができます。
例えば、歌の伴奏をするとき、その楽譜が歌う人の声の高さに合わないことがあります。このようなとき、楽譜（指の位置）はそのままで、簡単に調を変えることができます。

トランスポーズを選択する場合は、以下の鍵盤を使用します。



1 トランスポーズを選択します。

- CONTROLボタンを押したまま、選択したい調の鍵盤を押します。



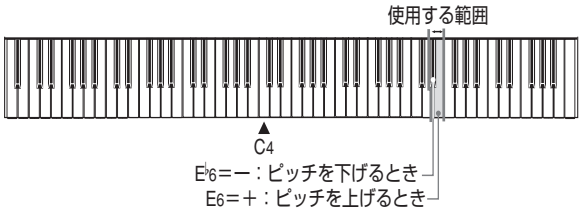
＊ 調の設定範囲はF♯～C～Fです。
＊ このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

MEMO

- 電源を入れたときは“C”に設定されています。また、一度設定した調は、電源を切ると同時に、そのつど解除されます。

チューニングについて

他の楽器の演奏に合わせて、本機全体のピッチをA4=440.0Hzから±50セントの範囲で調節することができます。
チューニングの設定は、以下の鍵盤を使用します。



1 チューニングを選択します。

- CONTROLボタンを押しながら、いずれかの鍵盤を押します。
  ＊このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。
- 鍵盤“E♭6(－)”を押すごとに、約0.8セント(1/128半音)ずつ下がり、鍵盤“E6(＋)”を押すごとに、約0.8セントずつ上がります。

MEMO

- CONTROL ボタンを押しながら鍵盤“E♭6（－）”と鍵盤“E6（＋）”を同時に押すと、チューニングはA4=440.0Hz になります。
  なお、“100 セント＝半音”です。

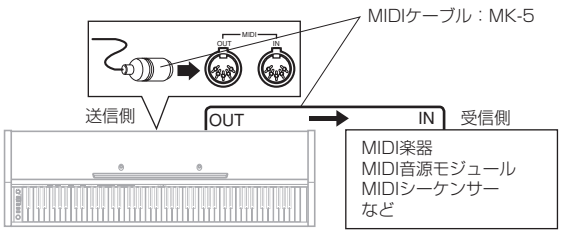
MIDI を使ってみましょう

MIDI について

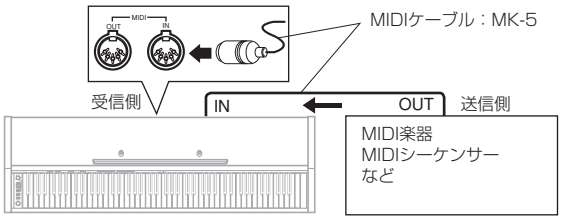
電子楽器どうし、あるいは電子楽器とコンピューター機器との間で情報をやり取りできるように、デジタル信号の仕様や端子の形状について定めた統一規格のことです。

MIDI の接続について

送信



受信



各設定をするには

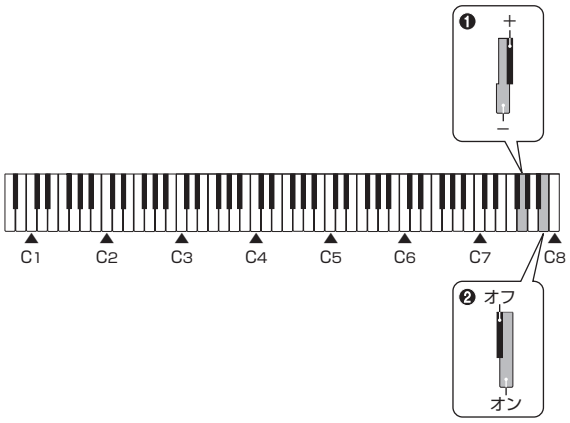
❶送信チャンネルの設定

本機の MIDI メッセージを外部の機器へ送信するチャンネルを 1 ～ 16 の MIDI チャンネルの中から 1 つ設定します。

❷ローカルコントロールの設定

本機の内部で、鍵盤部分と音源部分を電気的に切り離すか、離さないかの設定です。オフにすると、鍵盤と音源が切り離され、鍵盤を弾いても音が鳴らなくなります。外部のシーケンサーなどを使って本機の自動演奏を行う場合に、本体の鍵盤に触れても音を出さないようにできます。

1 **CONTROL ボタンを押しながら、以下の鍵盤を押してチャンネル番号を設定します。**



❶送信チャンネルの設定

－：数値が減る
＋：数値が増える

❷ローカルコントロールの設定

オフ
オン

本機の曲を増やすには

本機では、パソコンから転送した曲データを、ユーザーソング0～9番として保存できます（曲数：最大10曲※、容量：約7,600音符、約47キロバイト）。
※ 最大容量を越すと10曲入らない場合があります。

この操作をするために、下記のカシオホームページから必要なアプリケーションソフトをダウンロードして、お手持ちのパソコンへインストールする必要があります。

カシオ・ミュージック・サイト
http://music.casio.co.jp/

※各ソフトのインストール方法や使い方、曲データの購入方法、本機との接続などの詳細、最新情報についても、あわせて上記ホームページでご確認ください。

■カシオが提供するサービスを利用する場合

以下のサービスを利用して曲データを本機へ転送し、内蔵曲と同じように聴いたり練習することができます。

- インターネット楽譜配信サービス
  ※ 本機では、楽譜表示されません。
- インターネットカラオケ配信サービス
  ※ 本機では、歌詞表示されません。

■カシオが提供するツールを利用する場合

ご自身で購入／作成したSMF（Standard MIDI File）形式のデータを、カシオ専用の変換ソフトを使ってカシオフォーマットに変換して本機へ転送し、保存／再生できます。

インターネットカラオケ配信サービスのご案内

インターネット・ソングバンク

- ご家庭のパソコンで手軽に本格的なカラオケが楽しめます。
- カラオケソフトは無料！(誰にでも簡単にインストール可)
- 歌詞色変わり表示、カラオケボックス感覚の歌い放題。
- 1時間105円(税抜100円)からのお手軽料金。
- 試聴は無料。

この機会にカラオケソフト(サンプル曲付き)をぜひ、お試しください。

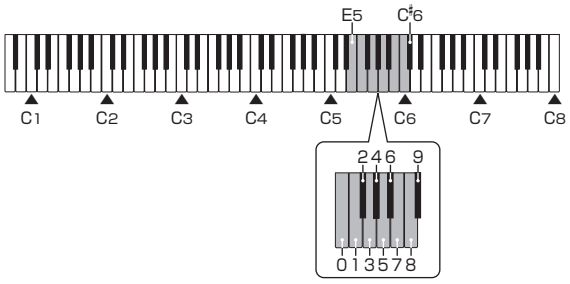
http://music.casio.co.jp/karaoke

ユーザーソングを再生するには

1 CONTROLボタンを押しながら、METRONOMEボタンを押します。

- ユーザーソング再生モードになります。

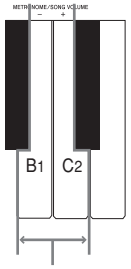
2 CONTROL ボタンを押しながら、再生したい曲番号（0～9）と対応している以下の鍵盤を押します。



＊このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

3 START/STOP ボタンを押して、再生を始めます。

- 曲の音量を調節するには、CONTROLボタンを押したままの状態で、鍵盤“B１(－)”または“C２(＋)”ボタンを押して音量を調節します(音量設定範囲000～127)。
  ＊設定できる内容は、本機鍵盤部の上側に記されています。



メトロノーム/ソング
音量設定鍵盤

＊このとき、どの鍵盤を押しても音は鳴りません。

- パソコンから転送した曲の中には、再生パートを選択できる曲があります。
  パート数に応じてRECORDボタンのランプが点灯します。
  RECORDボタンを押して、特定のパートのランプをオフにすれば、そのパートを練習できます。

困ったときは

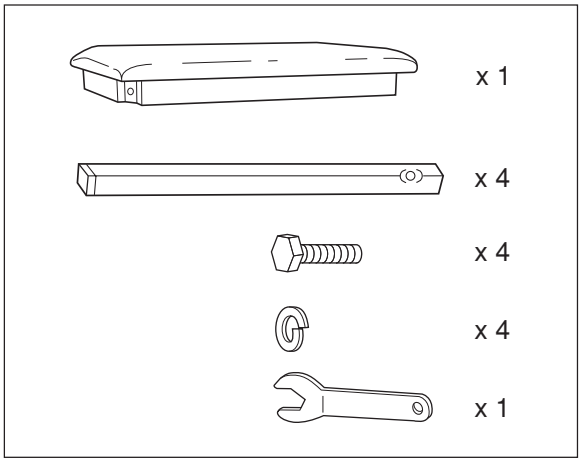
現象	原因	解決方法	参照
鍵盤を押しても音が出ない。	1. VOLUME つまみが“MIN”の位置にある。 2. ヘッドホンがつながっている。 3. ローカルコントロールの設定がオフになっている。	1. VOLUME つまみを“MAX”の方に動かす。 2. ヘッドホンをヘッドホン端子から抜く。 3. ローカルコントロールの設定をオンにする。	☞ 10ページ ☞ 7ページ ☞ 19ページ
ピッチがずれて聴こえる。	1. トランスポーズの設定が“通常の位置”以外になっている。 2. チューニングが正しく設定されていない。	1. トランスポーズの設定を“通常の位置”にする。または、電源を入れ直す。 2. チューニングを正しく設定する。または、電源を入れ直す。	☞ 17ページ ☞ 18ページ
ペダルを踏んでいないのに、効果がかかりっぱなしになる。	ペダルのプラグが、本体に正しく接続されていない。	一度電源を切ってから、ペダルのプラグをペダルコネクタに、しっかりと接続する。	☞ 25ページ
デモ演奏を始めたが音が出ない。	1. VOLUME つまみが“MIN”の位置にある。 2. ヘッドホンがつながっている。	1. VOLUME つまみを“MAX”の方に動かす。 2. ヘッドホンをヘッドホン端子から抜く。	☞ 10ページ ☞ 7ページ
メモリーの内容が消えてしまう。	リチウム電池が消耗している。	カシオテクノ・サービスステーションに連絡して、リチウム電池を入れ替える。	☞ 9ページ
鍵盤を押しても、外部のMIDI音源の音が出ない。	1. 本機の送信チャンネルと外部のMIDI音源のチャンネルが一致していない。 2. 外部音源のボリュームやエクスプレッションの設定が“0”になっている。	1. 本機と外部のMIDI音源の送信チャンネルを一致させる。 2. 外部音源のボリュームやエクスプレッションの設定を適切な値にする。	☞ 19ページ ☞ 外部音源の取扱説明書

イスの組み立てかた

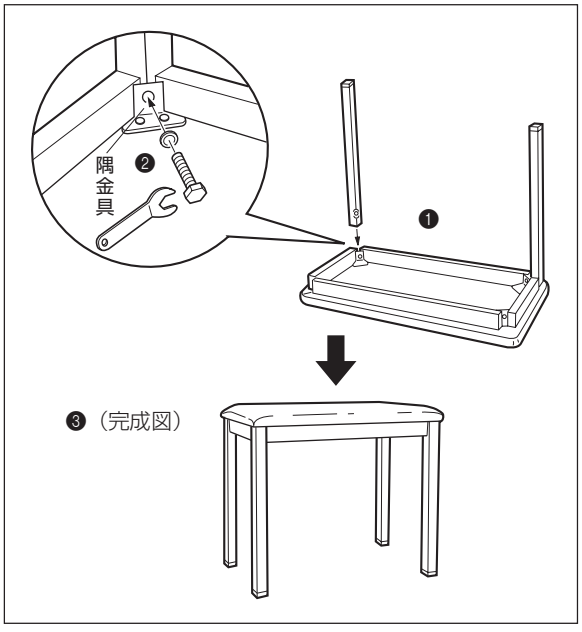
⚠注意

- イスで遊んだり、踏台にしたりしないでください。イスを遊び道具や踏台にすると、イスが倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。
- イスには二人以上で腰掛けないでください。同時に二人以上で使用すると、姿勢やイスに無理が生じ、けがの原因となることがあります。

部品をご確認ください



組み立てかた

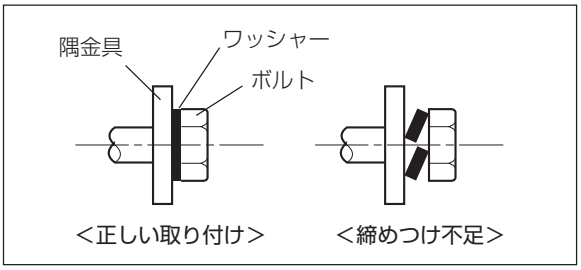


1）イスの座る面を下にして、安定した場所に置きます。(❶)

2）脚を取り付けます。

- ボルトをワッシャーに通し、隅金具の穴に入れ、専用スパナでしっかりと締め付けます。(❷)

※ このとき、必ず、ワッシャーとボルトのすき間がなくなるまで、締め付けてください。



⚠注意

- ボルトがゆるんできた場合は、専用スパナでしっかりと締め直してください。ボルトがゆるんだ状態で使用すると、ぐらつき、大変危険です。

3）イスを立てます。(❸)

取り扱い上のご注意

- 直射日光に当てたり、ストーブ等のそばに置くと、変色・変形する場合がありますので、ご注意ください。
- 不安定な床での使用は、故障等の原因になりますので、ご注意ください。

420B-J-024A

スタンドの組み立てかた

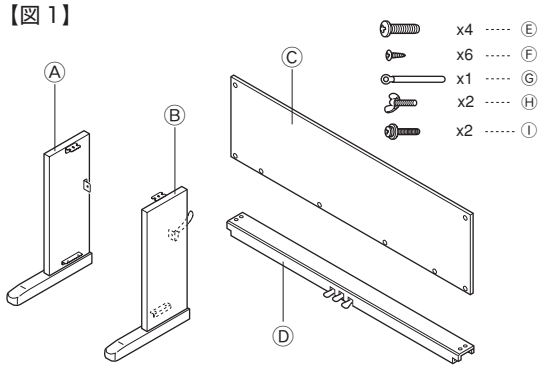
⚠注意

- 脚部、ペダル部の取り付けや、ピアノ本体をスタンドに乗せる際、手などをはさまないようにご注意ください。
- 組み立てを行う際、ピアノ本体のスライド式キーボードカバーを完全に閉めるようにしてください。組み立ての際、開いていたカバーが閉まり、ピアノ本体とカバーとの間に指をはさむことがあり、危険です。

重要

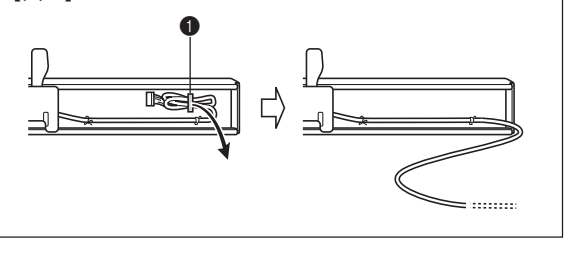
- 組み立ては、必ず平らな場所で行なってください。
- 組み立て用の工具は付属しておりません。あらかじめ大きめのプラス（＋）ドライバーをご用意ください。

【図 1】



- 最初にⒶ～Ⓘの部品がそろっていることをご確認ください（図 1）。
  ネジ類はビニール袋にまとめて、ダンボール緩衝材の中にあります。

【図 2】

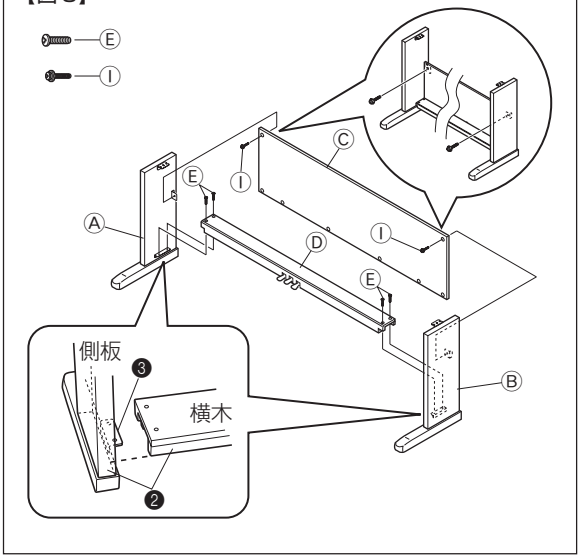


- スタンドの組み立てを始める前に、横木Ⓓの裏側にある❶の留めバンドをといて、ペダル接続用のコードを引き出します（図 2）。

1 スタンドを組み立てます

以下の 1)～ 3)の順序で行なってください。

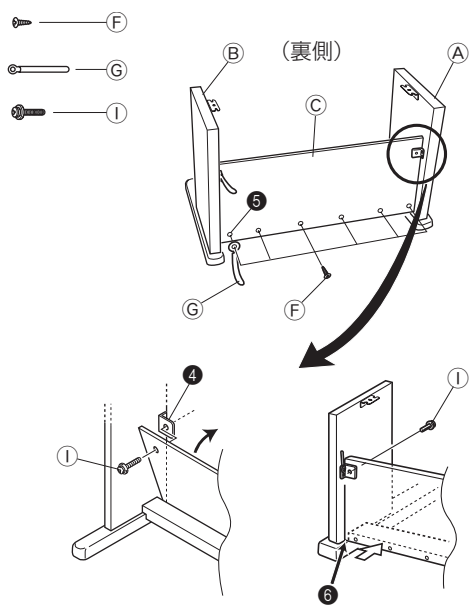
【図 3】



1）横木Ⓓを側板Ⓐ、Ⓑに取り付けます。取り付けには、ネジⒺを４本使用します（図 3）。

- ❷の部分を取り付けるときは、横木Ⓓの溝へ側板に取り付けた金具❸をはめ込みます。奥までしっかりはめ込まれていないと、金具❸とネジⒺが正しくかみあわず、ネジ山がつぶれることがあります。

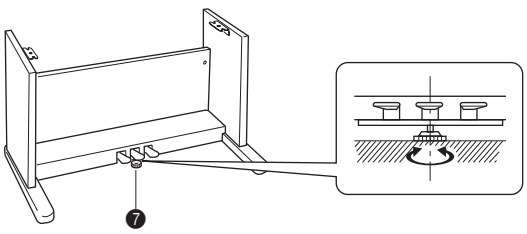
【図4】



2) 背板Ⓒを金具❹、横木Ⓓに取り付けます。金具❹に対して背板Ⓒが前にくるように取り付けます（図4）。取り付けには、ネジⒾを2本、ネジⒻを6本、クリップⒼを1本使用します（図3、図4）。

- はじめに、左右上端をネジⒾで取り付けます。❺の部分を取り付けるときは、ネジⒻをクリップⒼの穴に通してください。
- 背板Ⓒを側板Ⓐ、Ⓑの脚の部分にのせ（❻の部分）、横木Ⓓに押し付けた状態でネジⒾを取り付けてください。

【図5】



3) 高さ調節ネジ❼で、ペダルを踏み込んだ時にスタンドの横木Ⓓが沈まない所までネジ❼の高さを調節してください（図5）。

重要

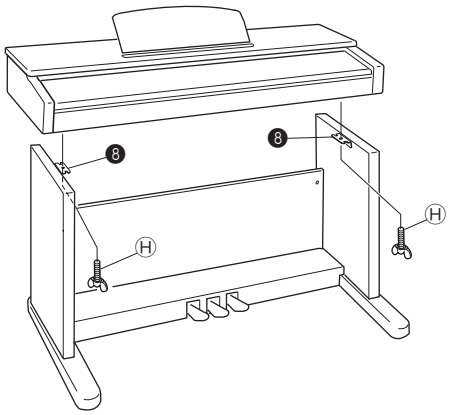
- 高さ調節ネジ❼を調節せずにペダル操作を行なうと、横木Ⓓがこわれることがあります。高さ調節ネジ❼は必ず調節してください。

2 *ピアノ本体をスタンドに取り付けます*

⚠注意

- ピアノ本体とスタンドの間に、手をはさまないようにご注意ください。

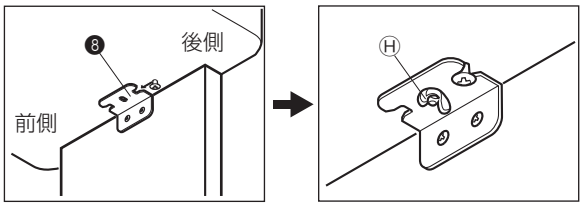
【図6】



蝶ネジⒽでピアノ本体をスタンドにしっかりと固定します（図6）。

- このとき、本体底面のネジを金具❽の切り欠きの部分に引っかけ、蝶ネジⒽで本体とスタンドを固定します（図7）。

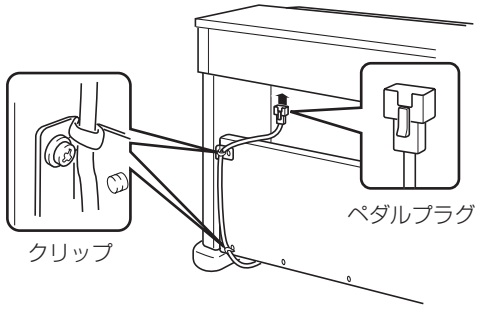
【図7】



- この蝶ネジは、ピアノ本体がスタンドからずれたり落ちたりするのを避けるために、必ず取り付けてください。

3 ペダルのプラグをピアノ本体に接続します

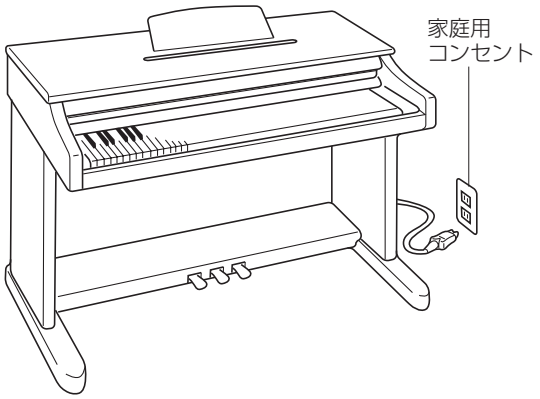
【図8】



ペダルのプラグをイラストと同じ向きにして、ピアノ本体底面のペダルコネクタに差し込み、ペダルのコードをクリップで固定します（図8）。

4 電源プラグを家庭用コンセントに差し込みます

【図9】



1）ピアノ本体の電源ボタンがオフの状態になっているのを確認してください。もしオンになっていたら、ボタンを押してオフの状態にしてください。

2）電源プラグを家庭用コンセントに差し込みます（図9）。

⚠注意

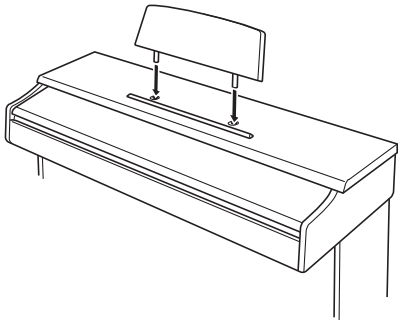
● スタンドのネジが温度、湿度の変化や振動などの影響でゆるんでいないか、時々点検してください。ゆるんでいたら、再度ネジをしっかりと締め直してください。

⚠注意

● いつでも電源プラグが抜けるよう、電源プラグに手が届く場所で本機をお使いください。

譜面立ての立て方

譜面立ては、本体の上面にある2つの穴にその脚を差し込んでお使いください。



製品仕様

型式	AP-26
鍵盤	88 鍵、ピアノ鍵盤、タッチレスポンス付き
同時発音数	最大 32 音
音色	10 音色（スプリット機能使用時の低音部専用 2 音色含む）、レイヤー・スプリット付き
エフェクト	リバーブ（4 種類）、コーラス（4 種類）
デモ演奏	• 曲数：8 曲 • 再生方式：繰り返し再生（全曲）
ユーザーソング	• 曲数：最大 10 ダウンロード曲 • 容量：約 7,600 音符、約 47 キロバイト
メモリー	• 方式：リアルタイム録音、再生 • 容量：約 5,200 音符（2 トラック） • 録音内容の保持：内蔵リチウム電池による（電池寿命約 5 年）
ペダル	ダンパー、ソフト、ソステヌート
その他の機能	• メトロノーム：拍子（6 種類）、テンポ（♩= 30 ～ 255） • タッチセレクト：3 種類、オフ • トランスポーズ：1 オクターブ（F♯～ C ～ F） • チューニング： A4 = 440.0Hz ± 50 セント（可変）
MIDI	16ch マルチティンバー受信
入出力端子	• ヘッドホン端子：標準ステレオジャック× 2 • MIDI [OUT] [IN] 端子
スピーカー	φ 12cm × 2（出力 20W + 20W）
電源	AC100V（50、60Hz）
消費電力	41W
サイズ	• 本体のみ：幅 137.2 ×奥行 42.3 ×高さ 20.5cm • 本体+スタンド：幅 138.5 ×奥行 43.2 ×高さ 81.0cm
重量	• 本体のみ：約 34kg • 本体+スタンド：約 44kg
付属品	ペダル付きスタンド、イス、譜面立て、ヘッドホン、取扱説明書（本書）、保証書

＊ 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

【別売品のご案内】

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
イス	CB-5 CB-7 CB-9BN CB-20LB
MIDI ケーブル	MK-5

＊別売品はいずれも、カシオ電子楽器取扱店（全国の有名楽器店、デパートなど）で、お求めになれます。

420B-J-028A

保証・アフターサービス

■ 保証書はよくお読みください

保証書は必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

■ 保証期間は保証書に記載されています

■ 修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書にしたがって正しく操作していただき、直らないときには次の処置をしてください。

● **保証期間中は**

保証書の規定にしたがってお買上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ･サービスステーションが修理をさせていただきます。

- 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
- 保証書に「出張修理」と記載されているものは、お買上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ・サービスステーションまでご連絡ください。

● **保証期間が過ぎているときは**

お買上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ･サービスステーションまでご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

■ あらかじめご了承いただきたいこと

● 「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただくこと」があります。
また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただくことがあります。

● 仕様が日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内のカシオテクノ･サービスステーションにご依頼ください。

■ アフターサービスなどについて、おわかりにならないときは

お買上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノ・サービスステーションにお問い合わせください。

■ カシオ製品のアフターサービス業務は、カシオテクノ株式会社が担当いたします

資料

初期設定一覧表

一度電源を切り、再度電源を入れると、それぞれの項目の設定は下記のようになります。

項目	設定
音色	グランドピアノ 1
リバーブ	ホール 1（グランドピアノ 1 に設定）
コーラス	オフ（グランドピアノ 1 に設定）
タッチセレクト	標準
トランスポーズ	C
チューニング	A4 = 440.0Hz
送信チャンネル	1 チャンネル
ローカルコントロール	オン

Model AP-26

MIDI インプリメンテーション・チャート

Version : 1.0

ファンクション		送　信	受　信	備　考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 ～ 16	1 ～ 16 1 ～ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代　用	モード3 × ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊	モード3 ×	
ノート ナンバー		21 ～ 108	0 ～ 127	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH V = 1 ～ 127 × 8nH V = 64	○ 9nH V = 1 ～ 127 × 9nH V= 0, 8nH V= **	**は関係なし
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ○	
ピッチ・ベンド		×	○	
コントロール チェンジ	0, 32 1 6, 38 7 10 11 64 66	○ × ○*1 × × × ○ ○	○ ○ ○*1 ○ ○ ○ ○ ○	バンクセレクト モジュレーション データエントリー ボリューム パン エクスプレッション ダンパー ソステヌート

	67	○	○	ソフト
	91	○	○	リバーブセンド
	93	○	○	コーラスセンド
	100, 101	○	○	RPN LSB, MSB
	120	×	○	オールサウンドオフ
	121	○	○	リセットオールコントローラー
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○ 0 ～ 7, 32 ＊＊＊＊＊＊＊	○ 0 ～ 7, 32 ＊＊＊＊＊＊＊	
エクスクルーシブ		○*2	○*2	
コモン	ソングポジション	×	×	
	ソングセレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアルタイム	クロック	○	×	
	コマンド	○	×	
その他	ローカル オン／オフ	×	×	
	オールノートオフ	○	○	
	アクティブセンシング	×	○	
	システムリセット	×	×	
備　考	*1：ファインチューン、コースチューンの送受信、RPN Null、及びピッチベンドセンスの受信 *2：• リバーブタイプ [F0][7F][7F][04][05][01][01][01][01][01][00][vv][F7] vv = 00：Room1、01：Room2、02：Hall1、03：Hall2 • コーラスタイプ [F0][7F][7F][04][05][01][01][01][01][02][00][vv][F7] vv = 00：Chorus1、01：Chorus2、02：Chorus3、03：Chorus4			

モード1：　オムニ・オン、ポリ　　モード2：　オムニ・オン、モノ　　○ ：あり
モード3：　オムニ・オフ、ポリ　　モード4：　オムニ・オフ、モノ　　× ：なし

CASIO®

カシオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

P MA0403-A Printed in China
AP26-JA-1